

2020 年度（令和 2 年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の向上	漢字テストや古文単語などの小テストを毎週実施し、基礎学力の定着を図る。 家庭学習においては、スタディサプリの授業動画などを積極的に活用し、授業の補強を行う。	A	A ・学力の定着を図るため、反復練習を実施する。 ・自学自習の習慣を付けさせるための方策を工夫する。 ・現代文、古文、漢文ともに応用力を身につけさせるためのテストを実施していく。 ・文章を理解する力を培い、読書を通して表現力を高める指導を行う。
	読書への興味関心および表現力の向上	図書室運営・読書指導係と連携し、図書室の蔵書利用を促す。 小論文などの指導において、読書を通して得た知識を基に自らの考えを確立し、相対する意見を踏まえながら論述する手法を習得させる。	B	
	自学自習力の養成	予習の仕方の具体的な指示をし、ワークブックやプリントなどで復習できるようにして、自主的に学習する力を養う。 定期考査の作問を工夫し、授業で得た知識を一般化して応用的に活用できる力を身に付けさせる。	A	
地歴 公民科	基礎学力の定着と理解の深化	社会の形成者として必要な資質を育成し、大学入試の新制度に対する学力を身に付けることを主眼とし、ICT教材の活用などによる授業の充実を図り基本的な知識の習得を徹底する。	B	B ・ICT教育、アクティブラーニング(AL)等、教育方法をさらに研究し、教員間の連携も深めつつ、教材研究と授業力の向上を目指す。 ・新学習指導要領も見据えた観点別評価と毎回の考査内容のより良いあり方を目指す。
	社会に対する興味関心の向上、豊かな思考力・判断力・表現力の養成	新聞記事や視聴覚教材などを活用する。 タブレットやパソコンなどにより自主的に調べ、「考える授業」を展開する。 自ら課題を設定し、レポートを作成するなどの経験を積ませる。	A	
数学科	授業内容の工夫と、基礎・基本の充実	単元毎の小テストの実施や教科傍用問題集を活用して、基礎力の定着を図る。	A	A ・教科書傍用問題集を家庭学習課題として定期的に取り組みせ、学習習慣の定着を図る。 ・成績不振者へは早めに自覚を促し、補習計画を立て、丁寧な指導により理解を深めさせる。 ・習熟度に応じて、より実践的な講座を設け、更なる学力の向上を図る。 ・スタディサプரி等のICT学習支援教材を適宜活用し、その指導法を共有する。
	生徒の学力差や進路目標、個性に応じたきめ細かな指導	習熟度に応じて、演習課題や補習授業を行い、より高い学力への到達を目指す。	A	
	本校の実態をふまえた教材の配置・選択・指導法の実践	基礎的な問題を解くことで定着させる。 他分野との複合問題を出題することで、応用力を養う。 映像等を用いて、視覚的に捉えさせることで、数学に対して意欲的に学ぶ姿勢を養う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
理科	生徒の実態・理解度に応じた授業の展開	実験、実習を取り入れながら科学的に見る力を養うとともに、上級学校後に必要な学力を身に付けさせる。指導法の工夫や改善に努め、わかりやすい授業の展開を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣や基礎学力が不足している生徒を支援しつつ、上位層の生徒の学力向上を達成するために、学習活動の充実を図る。 ・日常の課題や長期休業中のゼミ開講、課題学習等により継続的に学習に取り組める環境を提供し、学力向上を目指す。 ・新教育課程に対応した指導法の研究と活用に努める。
	授業時間確保の徹底	授業交換により自習時間をつくらないことを基本とするが、やむを得ず自習時間が生じた場合は、課題を準備し理科教員が補充にあたる。	A		
保健 体育科	心身の健康への理解および様々な問題に立ち向かえる精神力と体力の育成	保健指導並びに体育実技指導の両面から、個々にあった具体的な目標を持たせることで、達成感や充実感を味わえるような機会をつくり学習させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがに対する意識をもって安全で活気ある授業をする。 ・基礎体力の向上を目指し、身体づくりの運動に楽しく取り組めるように工夫する。 ・授業を通して、リーダーシップや協働する姿勢を身につけられる工夫をする。
	基礎体力、個人技能、集団技能の向上と、安全に協力して楽しく運動に取り組む姿勢の育成	様々な種目に取り組むことで、その運動の特性を知り、個人を認め合い協力していく姿勢を学習させ、個人・集団技能の向上を図る。	A		
		クラスマッチ等によりルールやマナー、協調性、思いやりの心を身につける。	A		
芸術科	個性豊かな人間性と情操の育成	近隣の美術館やホール等の活用を視野に入れ、本物に触れさせる等、鑑賞の質を向上させ、感性を呼び起こし磨く授業の工夫・改善を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の経験を活かし、新しい教材の開発と、新しい指導法を工夫・改善し、授業の活性化に努める。 ・全体指導と個別指導のバランスに気を付け、より個人の能力に応じた配慮ができるようにする。 ・音・美・書の情報交換をさらに密にし、芸術科として課題を見つけ、それが解決できるように努める。
	創造性の伸長	新しい教材の開発、自由課題の取り組み等によって総合的な能力の開発をする。	A		
	基礎表現力の育成	生徒の実態に即した年間学習計画を立て、計画に沿った学習指導に努める。	A		
	個人の能力・進路に応じた指導	個別指導に努め、個人の能力、適性に応じた細やかな配慮をする。	B		
	教科の協力推進	音・美・書の情報交換を密にし、常に芸術科の目標、問題点を確認する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
英語科	基礎学力の向上と定着	「わかる授業」を展開し、小テストや課題による習熟度を把握する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、教授法研究をさらに深める。 ・ICT活用による音読活動等、自学自習の促進を図る。 ・単語演習の充実と、多読の基礎となる英文読解の機会を増やす。 ・ネイティブ教員による授業やオンライン英会話、外国人による英作文添削を通して自己表現活動の充実を図る。 ・コロナ禍でも可能な留学生との対話等の方法を模索する。 ・外部検定等の取得促進を図り、常に各自の英語4技能の力を意識させる。
		1年次における辞書活用指導やICT機器活用を通して、基本的な学習習慣の確立を図る。	B		
	コミュニケーション能力の育成	ネイティブ教員による授業やオンライン英会話を通して、基本的な学習習慣の確立を図る。	A	A	
		校内暗唱大会実施し、外部コンテストへの関心を高める。	B		
		EC（English Connections：留学生との英会話）への参加を促す。	—		
	3年間の段階別指導による進路実現の支援	ゼミ授業による、基礎力・発展的学力の養成を図る。	B	A	
個人の能力、進路希望に対応した受験指導を行う。		A			
英語検定試験に向けた個別指導を実施する。		A			
家庭科	生活の改善向上力の育成	生活に要する基本知識・技術を指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
		生活課題を発見し、自ら改善する力を育成する。	A		
		実験・実習を通し、技術を身に付け実践力や協働の精神を学ばせる。	B		
情報科	コンピュータや情報ネットワークを活用する知識や技能の習得	Word・Excel・PowerPointのソフトを活用できるようにする。また、検定試験に挑戦させ、習熟度を確認させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な技術の定着を図り、応用力へ発展させる教材開発に力を入れる。 ・まとめ、発表する力の育成を目指す指導法、教材を工夫する。 ・テーマの設定を工夫し、自分の意見をより多くの人にわかりやすく伝える技法を身に付けさせる。
		コンピュータやネットワークを活用して、情報を適切に収集・処理・発信する基礎的な技術と技能を習得する。	A		
	情報を正しく扱うためのマナーやルールの理解および主体的に活用する態度の育成	研究レポートの作成を通して、情報を収集し、必要な情報を利用する力を育成する。また、画像の利用を通して、著作権やマナーを理解する。	A		
		発表体験を通して、自分の考えをまとめ、主体的に相手に伝える力を育成する。また、グループワークを通して他の意見と比較をすることで相互理解の力を養う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務部	新学習指導要領に基づく教育課程編成の検討	教育課程の編成における各教科の共通理解を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度教育課程編成に取り組む。 ・生徒の家庭学習時間の確保と定着法を検討する。 ・教務部内の業務分担の明確化と連携に取り組む。 ・学力向上の基本である授業の内容の充実と時間確保により一層努力する。 ・明確化された学校ビジョンへの理解と広報活動により一層努力する。 ・ホームページには、部活動の活動報告だけでなく、各学年や各種学校行事を積極的にアップする。 ・スケジュール管理（タブレット利用）やClassiの活用をすすめる。 ・教科内での授業力向上の研修や情報交換の機会を設け、ICT機器の活用を含め、授業展開の工夫や教材の共有を考える。 ・タブレット利用やディベートを用いた授業展開を研修する。 ・学校公開や授業アンケート実施後の活用方法を工夫して評価の研究を進める。 ・2学期制導入を視野に入れた、大胆な年間行事の見直しを行う。
	各分掌間の円滑な連携と教育活動の活性化	校務分掌の円滑な運営に努力める。	B	B	
		授業の振り替えを行い、自習時間を削減し、授業時間の確保に努める。	B		
	外部への情報提供	学校ビジョンを共通理解し、外部への広報活動を積極的に行う。	B	B	
		ホームページの充実を図る。	C		
	教務システムの円滑な運用	学級や成績の管理・処理を堅実に行う。	A	A	
		個人情報・セキュリティの管理を堅実に行う。	A		
	校内研修の円滑な企画と運営	授業の質向上のための研修を推進する。	A	A	
学校評価の研究	学校評価、特に外部評価等についての研究を行う。	B	B		
年間行事計画の見直し	年間行事計画についての見直しを継続して行う。	B	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
生徒部	生徒の問題行動の事前防止と抑制	校内巡視・校外補導を強化し、本校生としての自覚を意識させる。 禁煙教室・薬物乱用防止教室・メディア教室などを実施し、生徒に自ら考える機会を与え防止抑制につなげる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の身だしなみの向上。 ・交通ルールの遵守を徹底させる。 ・SNS等の利用マナーの向上を図る。
	基本的生活習慣の確立	登下校指導・遅刻指導の強化、アンケートを実施するなど、規則正しい生活習慣を身につけ、服装身だしなみを意識できる生徒を育てる。	B		
	公共でのマナーの確立	交通安全教室やマナー教室などを実施し、社会のルールや道路交通法などの重要性を理解させる。	A	A	
入試 広報部	広報誌・学校案内・パンフレットなどを通じた学校理解の促進	広報誌（T-Color年間3回）を発行し、本校の教育活動を紹介する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え 挑み続ける」をキーワードとした教育を生徒募集の柱として位置づけ、本校教育の特色を明確にし、積極的に発信する。 ・ホームページやSNS等の更新回数を増やし、情報発信をより積極的に行う。 ・見学会の内容を再検討し、より本校の特色を理解できるようにする。 ・アンケートの質問内容を検討し、広報活動にフィードバックする。（ニーズ調査） ・本校の特色について教員間の共通理解を図り、本校のよりよいあり方を検討する。
		選択される学校になるための教育活動を積極的に発信する。	A		
		本校の受験に役立つ最新情報を常に発信する。	A		
	見学会・説明会の実施	実施時期、内容を各地域中学校に広報し、参加を呼びかける。	A	A	
		参加した中学生に本校の特色を発信し理解を深める。 各中学校へ出張し、積極的に広報活動を行う。	A		
ホームページ・SNS等による情報発信	ホームページ・SNS等を通して、的確で速やかな情報発信を行う。	B	B		
ニーズ調査の実施	説明会参加者へのアンケート、入学生とその保護者へのアンケートなど、各種調査の整備を図る。	A	A		
保健部	生徒の心身の健康管理	心身の健康のための生徒個人の保健室利用の実態をふまえて、学年との連携を図る。（カウンセラー及び保護者とも連携した対応を図る。）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の健康については、教員や保護者間での連携を、今後も継続して密にする。生徒の毎日の健康チェックの励行を呼びかける。また、保健室から必要な情報を適宜発信する。 ・スクールカウンセラーの相談体制について、継続して周知に努める。
	教育相談受付窓口の周知	係や教員に直接、ポスト利用、メール、電話で、生徒や保護者からの相談を受ける体制を整える。	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
保健部	校舎内清掃の徹底および環境美化	教室内の整理整頓及び清掃の徹底。廊下・階段・窓の汚れの除去に努める。空気検査、照度検査を行い問題点の抽出と改善をする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生検査の結果に応じて、教室内の換気等の必要性の認識度を上げる働きかけをする。 新型コロナウイルス感染症の対策として手洗いの励行、共用部の消毒の徹底を呼び掛け、指導する。 環境美化は委員会として独立する。
進路部	生徒の進路希望の実現	生徒の進路希望に応じた授業・ゼミを実施し、実力向上をめざす。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ゼミについての抜本的検討を行う。 進路部と学年代表との打合せを定期的に行う。 小論文や面接の指導は全職員で取り組む。 進路ニュースの発行と、保護者への進路情報提供に努める。 スタディールームの利用率を上げる。 成績データの活用を推進する。
		進路部・学年・担任との連携を強化し、進路情報・進路相談の充実を図る。	B		
		推薦・AO入試に向けての小論文指導・面接指導の充実を図る。	A		
	生徒の進路意識の高揚	進路行事（進路ガイダンス・進路講演会・オープンキャンパス見学会・合格体験講演会）を実施し、生徒の意識の高揚に努める。	A	A	
		インターンシップを活用し、生徒の意識の高揚に努める。	A		
		進路に関する情報提供（「お金講座」・進路講演会・進路情報誌）に努め、保護者との信頼関係を深める。	A		
	進路情報の充実	「進路ガイドブック」を作成し、HRの時間を利用して、効果的な活用を進める。	B	A	
進路資料室、スタディールーム、グループスタディールームの有効的活用・定期的な進路情報の提供（進路希望調査・進路情報紙）・インターネットの活用に努める。		B			
模擬試験分析会、志望校検討会の実施・Kei-Netやファインシステムの活用に努める。		A			
特別活動部	HR活動の充実	各学年と連携してLHR活動のいっそうの充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> LHRの内容を精査し、記録と資料の整理を徹底する。 生徒評議会を毎月実施し、より積極的な意見交換のある生徒総会を開催する。 新入生に対して、さらに魅力ある部活動紹介を行うとともに、生徒の参加意識や所属意識を高める。
		「総合的な探究の時間」と連携した体系的な計画を立てる。	A		
		生徒が主体的に立案・計画・実施できるようにはたらきかける。	B		
	生徒会や委員会活動各種行事の活性化	生徒会が全校生徒を各種行事でさらに強くリードできるようにする。	A	A	
		生徒総会や生徒評議会を通じて、クラスや学年・学校全体についての討議を充実させる。	A		
各種委員会活動を活発にして生徒の主体的・積極的な参加を促す。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動部	生徒会や委員会活動 各種行事の活性化	豊かな高校生活を送るため、クラスマッチやときわ祭を生徒の活躍の場としてさらに充実させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動との切り替えを徹底させ、文武両道の実現に向け支援する。
	部活動の奨励	部活動加入率を上げ、生徒の参加意識や所属意識を高める。	A	A	
		壮行会や新旧引継セレモニーなど部活動関係の全校行事を通じて、学校全体で支援する一体感を育む。	A		
		顧問会議を通じて規律等を共有し、部活動同士の横のつながりや一体感の醸成を図る。	B		
研究開発部	体系的な探究学習プログラムの構築	特進選抜コース 個人課題研究を見据えた資質・能力の育成につながるプログラムを構築する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習のプログラムについては、社会の変化等を意識して柔軟に変更・改善する。 ・学校全体の教育活動と探究を有機的に結びつけるため、評価方法の見直しを行う。 ・ICT機器の見直しについては授業担当者の格差が大きいため、研修などを充実させて是正を目指す。 ・コロナ禍でも実施可能なプログラムを検討し、社会に開かれた教育の実現を目指す。
		特進コース SDGsや学校行事と有機的に結びつけた体系的プログラムを構築する。	A		
	評価方法の検討	本校が目指す資質・能力と関連づけたルーブリックを作成する。	C	B	
		学びみらいPASSなど評価アセスメントの効果的活用をする。	B		
	ICT教育の普及と情報リテラシーの育成	ICT教育の普及につながる環境整備（校内規則の作成、研修の充実）に努める。	B	B	
		情報リテラシーの育成を主眼に置いた教科教育活動を展開する。	B		
	学校外機関との連携強化	思考力や表現力の育成につながる大学特講を開設する。	A	B	
外部機関と連携し、生徒の視野を広げるプログラムを構築する。		C			
国際教育	異文化体験（留学等）による異文化理解と語学力の養成、国際社会で活躍できる人材の育成	（本年度コロナウイルスパンデミックによりカナダ留学プログラム募集中止） 2021年度へ向けカナダ3か月語学留学およびサマーキャンプの充実を図る。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・（コロナウイルスパンデミックによりカナダ留学プログラム募集中止） English Day Camp等への参加を奨励する。 ・（2022年度へ向け）カナダ3か月語学留学およびサマーキャンプの充実を図る。 ・生徒が国内で参加できる国際教育活動を支援する。
		各種スピーチコンテスト等への参加を促す。 常磐大学EMPOWERMENT PROGRAMへの参加を奨励する。	C		
		ホームページにおける情報提供をする。	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1 学年	基本的な生活習慣の確立	クラス、学校での集団生活に必要なマナー、ルールを理解させ、自律的な生活をさせる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・服装やマナーなど、注意をされる前に自分で考えて行動できるよう、意識づけを行う。 ・毎日自主的に家庭学習する習慣の定着とその学習の質の向上を図る。 ・進路について自主的に考え、情報を収集する姿勢を養う。 ・特別活動や総合的な学習の時間を活用し、様々な経験をさせることで、リーダーを育成する。 ・Classiなどを活用し、保護者に対して学校生活や進路についての情報・取り組みを、より積極的に発信する。
		生徒の実態把握を通じて、問題行動の早期発見と早期解決に努める。	A		
		リーダーを中心に、生徒自らが各自の責任を果たし、チームワークを保ちながら学校生活を送るための支援をする。	B		
	基礎学力の充実	授業への自覚を高め、授業に真剣に取り組む姿勢を形成する。	A	A	
		予習、復習への取り組みと進路実現を目指した、自学自習の重要性を意識させる。	A		
		成績不振者へのきめ細かい指導を行う。	A		
	進路指導の充実	HR、集会、講演会、進路ガイダンス等を通じて、進路に関する情報を提供し、職業観の確立、進路・コース選択に向けて意識を高める。	A	A	
		面談の機会を通じて、自己の適性や関心を見つめさせ、意識の向上につながるよう支援する。	A		
		保護者面談、保護者への説明会等を通じて、保護者の理解を深め、協力を得る。	B		
	特別活動への参加	生徒会活動や学級、学年の活動への参加を通じて、生徒が自主的・自立的な活動の重要性を理解し、協力共同の意識を確立する。	A	A	
部活動への参加を促し、部活動と学業との両立を支援する。		B			
2 学年	自律に基づく生活習慣の確立	問題行動の防止・早期発見・早期指導に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・学習両面において教員の共通理解のもと指導の徹底化を図る。 ・教員個々に生徒の変化を敏感に感じ取る感覚を磨き、当意即妙に対応する力をつけるとともに、学力向上と進路決定に向け、学年外教員の協力も得ながら一体となって指導に当たる。
		服装・頭髪指導を継続的に実施する。	A		
	学習指導の充実	学習の基本が授業であることを認識させ、家庭学習の習慣化を図る。	A	A	
		スタディサプリなどの教材の活用によって学力向上を図る。	A		
	進路目標のさらなる明確化	生徒面談を通し、より明確な進路希望を決定する指導を行う。	A	B	
講演会や進路ガイダンス、オープンキャンパス、インターンシップ等を活用して、自己の興味・関心及び適性を考え、将来の学部・学科等の絞り込みを行う。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
2 学年	修学旅行の充実	事前指導を十分に行い、団体生活に必要な規律やマナーを学習させ、協力性と団結力を養う。	A	A	・平時とは違い、生徒自身では志望校の情報を集めにくいことを考慮して、丁寧な進路指導を行う。
		戦争体験者の講話や資料館、戦争史跡などの見学を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを学習させる。	—		
3 学年	基本的な生活習慣および最高学年としての自覚と品位の確立	清掃指導の徹底等により、学習環境を充実させる。	A	A	・基本的な生活習慣や服装指導などにおいて学年教員全員の共通認識のもとに取り組む。 ・進路決定後の学校生活を規律あるものにするため、学習指導・生徒指導の充実を図る。
		挨拶の励行、制服の正しい着用など規律正しい生活を習慣化させる。	A		
		遅刻・欠席の防止について、家庭との連絡を密にする。	A		
	進路目標の具体化および実現のための様々な力の育成	日々の授業の大切さを認識させ、家庭学習の確保・定着化を図る。	A	A	
		最新の受験情報を生徒・保護者に提供する。	B		
		面談等を適宜行い、生徒ひとり一人に対応した進路指導を実施する。	A		
		小論文・面接の指導は、総合的な学習の時間を中心に、担任が進路部・学年関係職員・教科担当者の協力を得て、きめ細やかに対応する。	A		
		0 限ゼミ・長期休業中のゼミを進路希望・習熟度に応じてきめ細かく実施する。	B		
	社会規範の遵守など進学、就職などに必要な社会性の確立	より高い進路希望を掲げさせ、大学共通テスト、一般入試、特待生入試に挑戦させる。進路決定後も学び続ける生徒を育成する。	A	A	
		社会生活におけるマナーの大切さを講演会や時事問題に触れさせることで考えさせる。	A		
		面接指導を通して、自己表現力を身につけさせる。	A		
		交通ルールや社会常識等を身につけさせる。	B		

判定規準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分